



(公社)佐倉市シルバー人材センター ホームページ

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター

佐倉市のランドマークとも言えるオランダ風車のあるふるさと広場。ここでもシルバー人材センターの会員が活躍しています。観光船の助手兼観光ガイドとして働いている鶴崎金次さん取材しました。

佐倉コスモスフェスタ

10月半ばの取材当日、ふるさと広場は50万本の赤、黄、ピンクなど色とりどりコスモスの花で埋め尽くされ、朝早くから小さな子供さん連れの家族で賑わっていました。周りにはたこ焼きなどの屋台のお店や猿まわしの見せ物まで出て、お祭り気分を盛り上げていました。



コスモスフェスタ



屋台のお店色々

職場紹介

印旛沼観光船 助手兼観光ガイド

船が運行されています。

観光船は乗合船の他に、イベント期間以外の週末に運行されている渡しや、団体の予約で不定期に運行される最長2時間の周遊コースなど、いろいろな乗り方が用意されています。

印旛沼観光船

取材で乗船したのは土曜日の10時発の乗合船。乗合船は2艇のレジャーボートが30分間隔で午前午後それぞれ4便ずつ、1日合計8便が運行されています。

乗合船のコースは飯野竜神橋下の船着場から出発し、オランダ風車を左に見ながら西印旛沼に乗り出し、双子橋が見える辺りでUターン、約40分後戻り周遊コースです。お客様の定員は本来11名のところ、現在はコロナ対策として6名に減らして運行しています。



飯野竜神橋下の船着場



兼田勝美船長(右)と鶴崎さん

鶴崎さんに聞きました

センターから助手兼ガイドで登録しているのは3名。助手兼ガイドのお仕事は、船長の

死角になる左舷の安全確認、船の離船・着船時のロープ着脱の作業、救命胴衣の装着はじめお客様の世話、そして観光案内と様々です。鶴崎さんがこの仕事を始めたのが4年前、人と接することが好きでこの仕事を続けているとのこと、お客様の子どもに優しく声をかけて説明をしている姿が印象的でした。乗船中ガイドする内容は、印旛沼の水生植物、生息する鳥や魚、カミツキガメの捕獲など様々な話題に及びます。「なるべくお客様の興味を引くよう、資料や写真をお見せして説明しています。新しい知識を吸収する様、印旛沼についての講演を聴きに行ったりしています。大勢のライン仲間情報発信するともに、仲間からも新しい話題を吸収しています。」とスマホの色々な画面を見せて頂きました。最後に観光船のPRです。「観光船は100%換気状態でコロナに対して安全です。朝からほとんどの便が満席になっています。岸からは違う、水上から見る印旛沼の新鮮な景色をぜひ楽しんで下さい。」鶴崎様、取材にご協力ありがとうございました。後もお元気で印旛沼の魅力をお伝え下さい。



スマホでもご覧ください 動画

取材担当/広報委員 小野寺 弘孝

体験談の後、目の前で蕎麦打ちの実演を見せてくれました。まず大きな木鉢に今年初めて採れたそば粉を二八に配合して、適量の水分を加え、手早く混ぜこねていく“水まわし”という特に重要な手順で、プロ並みの手つきは長年の鍛錬のたまもの。蕎麦の出来はこれで決まるといいます。それを1つの塊にまとめる「くくり」。手のひらで円盤状にしていく「練り」、麺棒を使ってまずは丸く次に四角に、ひたすら切れないように念じつつ薄くしていく「延ばし」。これを「たたみ」、独特の包丁とこま板を使って蕎麦の太さにトントンと「切る」。これが1つの見せ場のよう



で、真剣な様子に魅了されました。最後に「茹で」で新蕎麦の出来上がり。



最後に、今後の希望と長く続けられる蕎麦打ちの魅力について伺うと、「これからも毎週木曜日にそば処「遊」回転木馬店、電話043-488-6642(営業時間10:00~14:00)で美味しい蕎麦を打っているの、ぜひ食べに来ていただき、たくさんの笑顔に出会えたらうれしい。」蕎麦打ちの魅力は「難しいから面白く、日によって違うのでやりがいがあり、言う事聞かない分楽しい」とユニークに語ってくれました。



中村さん、回転木馬店の皆さん、取材へのご協力ありがとうございました。

取材担当/広報委員 長谷川 幸雄

人味と趣味



中村さんは、京都市西陣で生まれ育ち、その後、東京日本橋で40年以上、呉服に携わってきた自称「和服の似合う?きもの人」だそうです。それがどういう動機で、「蕎麦打ち」が趣味になっていったのか?本人曰く「子供が成長するにつれ、晴れの日(行事)には、蕎麦を打って祝ってやりたかったから」との事。20年程前から本を読んだりして、家で打っていたのですがなかなか上手に出来ず、祝いの日なのにみんな変な笑顔だったそうです。「これは何とかしないといかん」と思っていたところ、6年前、散歩の途中で偶然「蕎麦打ち体験教室」を見つけて、村上先生と出会い、早速先生のところへ入門されたとの事。



左 村上先生 右 中村さん

先生の教えは「蕎麦はオープンキッチンだよ!人前で打ないと上達しない」という考え方。コロナ禍以前は、色々な施設へ行き、親子蕎麦打ち教室、男の料理教室などいろんな方々の前で打ちました。そのおかげで恥をかきながら、どうかお客様に出せるようになり、今では味に厳しい家族も笑顔で食べてくれるようになったそうです。

中村 昭三 会員(白井千代田地区 3班) 11月に入り、新蕎麦のできる時期になり、江原台で毎週木曜日のみ営業し、手打ち蕎麦を食べさせる「そば処・遊」というお店を訪ねました。店内から「いらっしやいませ〜!!」という明るい挨拶が聞こえ、トントントントンとリズム良くお蕎麦を切る音、微かにカツオ出し汁の香りが漂う。そんな「本格的手打ち蕎麦」をリーズナブルな価格で提供している穴場で趣味として働いている中村さんから、お話を伺いました。

会員互助会 「長寿(米寿・喜寿)お祝い会」についてのお知らせ

会員互助会では、例年2月に「長寿お祝い会」として「米寿・喜寿」を迎えられた会員の皆様にお集まり頂いておりましたが、新型コロナウイルス感染継続するなかで、会場としているミレニアムセンターの使用条件も厳しい状況にあり、会員の感染予防を最優先とする考えから、今年度の式典は中止することに致しましたので、ご了承願います。つきましては、対象となられます皆様方には、個別にご案内させていただきますので、宜しくお願い致します。 令和3年12月1日 会員互助会会長 岡本 恒雄

佐倉市シルバー人材センターの主催で法定教育を実施

千葉県シルバー人材センターに先駆けてSSJCでは、昨年8月の法律改正で実施が義務付けられたチェーンソー特別教育の第1回目を、今年の9月29日と30日に主催しました。植木職第30期生の11名と一緒に2名の市職員の方も受講された現場取材しました。

認められたSSJCの植木職の水準

SSJC役員並びに関係者の尽力によりこの特別教育の主催者としてSSJCは評価され、技能向上委員会が実施しました。講師は知識・技能・経験を有すると認められたSSJCの植木職会員です。

会員を守る

現在の法律では、チェーンソー特別教育を修了せずに伐採業務に従事した作業員は、法律違反により罰金が科されます。また、チェーンソーを使用する樹木伐採の仕事はSSJCが無資格の会員に紹介すると、公益社団法人の認定を取り消され、その影響は他の会員にも波及します。会員の安全と就業の機会を守ることはSSJCの大きな使命です。

自作の教材も準備

開会式では佐々木副会長の先導による安全スローガンの唱和、田中会長の挨拶、島田講師の紹介があり、この後に、受付時に受講者に配付された2冊のテキストを使用して、第1日目の講義が始まりました。テキストの1冊はSSJCの自作です。

第1日目は学科教育

講師の島田邦生さんは植木職第16期生の大先輩です。講義の最初は、チェーンソー作業での事故をとりあげて、作業時の安全の確保に関する知識、専用の脚部防護服や

保護具、チェーンソーの構造、操作方法、点検・整備などの知識、運転中の振動による障害の予防、関係法令について、1日かけて学びました。点検・分解・整備の実演には、SSJC植木職の井澤勝彦講師も加わり、現物に触れながら学びました。

第2日目は実技教育

SSJC植木職の堀昌義講師も加わり、小篠塚の市チップ置場で学習です。朝礼の後、2班に分かれて3名の講師より実技の手ほどきを受けました。山積みの中からの教材を選び出し、準備を整えたところで、講師が基本の切断の手本を見せます。次に受講者は同じ動作をするのですが、道具の構え方や作業姿勢に丁寧な指導が入ります。立木の伐採では、手本通りの操作で切り口をつけたつもりが、実際の仕上がりが具合は別ものです。が、回数を重ねるうちに要領をつかみ、構え方も安定してきました。実習で輪切りにした杉の木片は記念品です。

修了証の交付

特別教育の全課程を修了した13名には『修了証』並びに携帯用カードが交付され、全員が有資格者になりました。

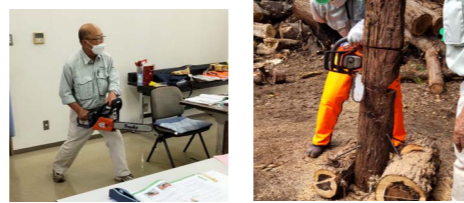
この教育を修了した植木職会員は、請負える業務の範囲が拡がり、皆さん、これからは安全第一で活躍してください。



特別教育 講師陣(左)井澤勝彦さん(実技)、(中央)島田邦生さん(学科・実技)、(右)堀昌義さん(実技)



基本の切断を実習



種類とチェーン刃 持ち方・構え方



分解・整備の実演 木を倒すための2カ所の切り口の完成



講義風景 倒した木の破断部を確認



チェーン刃の砥ぎ方実習 修了証の授与

取材担当/広報副委員長 徳野 廣一

佐倉産業大博覧会 佐倉草ぶえの丘にて、 11月13日(土)・14日(日)の 両日開催!

佐倉市内の商工業や農業の魅力を多くの市民に伝えるため、佐倉商工会議所所属企業や、佐倉市内の農業団体の参加で製品・技術の発表、特産品の展示・販売等が行われました。

なお、新型コロナウイルス感染症対策として、入り口での検温と手指消毒や来場者の氏名記入が行われ、飲食コーナーを限定するなど、十分な対策がとられていました。

両日も好天に恵まれ、多くの市民で賑わいました。主催者発表で、来場者、出展者、スタッフ合計、二日間で1万人だったそうです。

当センターも福祉有償運送部門と訪問介護部門が出店し、当センターのPRを行いました。研修棟前の「はたらくのりもの」コーナーへ、福祉有償運送レインボーシャトルを展示し、送迎サービスのPRと車椅子乗車時のシャトルへの乗降実演を実施し、大変盛況でした。



「はたらくのりものコーナー」のブースへ未来のドライバークンパニオン

また、訪問介護事業所スタッフが、飲食・物販ブースにおいて、「訪問介護サービス」の説明と各種チラシ類



「レインボーシャトル」への乗降実演

の配布を行うと共に、ブースの反対側では、センターのPR動画を55インチの大型テレビで放映しました。

当日は当センター局員8名で対応に当たり、多くの会員の来園もありました。スタッフの皆さん、搬入から搬出作業を含め、二日間の展示やセンターのPR、大変お疲れ様でした。

取材担当/広報委員長 岩淵 功



10月30日、秋深い佐倉市の夜空に、市内随所で花火が上がりました。花火大会は例年ふるさと広場で行われていましたが、昨年は中止となり、今年は装いを新たに2年振りの花火大会となりました。

コロナ禍で外出の自粛も強いられている中、市民の皆さんに希望と元気を届けようと、佐倉市が知恵を絞って考案した、分散しての同時打ち上げ花火大会です。

密集・密接を避け、自宅や近隣で花火を見られる様、打ち上げ場所を10カ所に分散し、各300発、20分程度の打ち上げでした。

翌日の打ち上げ場所近辺の清掃作業は例年当センターが受注していますが、今回も合わせて50人のシルバー会員のお仕事となりました。

花火大会を終えて関係者に振り返って頂きました。佐倉観光協会からは、「例年多く寄せられる交通渋滞や騒音の苦情がほとんどありませんでした。逆に市民の皆さんからは、自宅に居ながら小さい子供さんと一緒に楽しむ。同時に何ヶ所もの花火が見



志津地区宮の杜公園から



ハロウィン仮装のお嬢さん達がお菓子の差し入れサプライズ登場

られた、など暖かい言葉を頂きました。」市役所産業振興課からは、「特に、小さな子供さん連れや高齢の方々が自宅で楽しむことができたこと好評でした。今回の分散花火大会は少なくとも県内では初めて、全国でも珍しいのでは。当夜はテレビ朝日がヘリコプターを動員して取材し、翌日夕方の報道番組で映像が流されました。」

佐倉市民花火大会関係者の皆様、工夫を凝らした花火大会をありがとうございました。

取材担当/広報委員 小野寺 弘孝